

介護事業部 ヘルパーセンター 好事例シリーズ⑤

「ご自分らしく最後まで生きる
お手伝いができた」

～事例分類～

健康状態 / 理解・行動 / ADL /

家事・IADL / **QOL** / 介護状況

ヘルパーさんとのかかわりが
どんな変化をもたらしたのか、
読んでみるまも♪



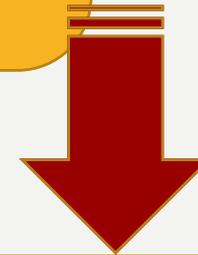
スライド全6枚

【事例情報】

○70歳代 ○男性 ○要介護2

【Before】令和元年10月頃

ヘルパーは週1回のシャワー浴の支援だったが、体調が悪化し休止。その後、癌の進行により生活全般に支援が必要になった。



【After】令和元年10月頃

週3回にヘルパー増回すると共に、サービス内容を変更した。他機関との連携があり、ヘルパーの支援は週3回で生活の質を保つことができ、「入院せず自宅で暮らしたい」というご本人の意思を実現できた。



経過

阻害要因・背景	サービス・ケア内容	サービス提供のねらい
<p>癌による、発熱、ふらつきあり、転倒のリスクが大きい。患部の炎症からくる発熱により入退院を繰り返す。医師や看護師が気に入らないと、トラブルになり退院したこともある。体調不良時も入院は拒否される。</p>	<p>週3回の訪問で、ご本人の話を傾聴しながらベッドメイク、動線確保、洗濯物整理、掃除。ポジションバーの設置。</p>	<p>夜間トイレに行く時、ベッドからずり落ち、転倒してしまうことを防止する。</p> 
<p>喫煙を我慢するのは満1時間が限界だった。洗濯物がきれいにならないという思いがあり、洗濯機の時短コースに拒否があった。</p>	<p>1時間以内で延長はせず、洗濯、清拭、足浴の支援。（順番の変更）</p>	<p>訪問しすぐに洗濯開始、活動終了時には洗濯干し迄行えるようにし、清潔な衣類を身に着けることができる。</p>
<p>癌の進行により、食欲がなく自分での調理ができなくなった。食べたいものと、食べられるものに相違が出てきた。</p>	<p>1時間以内で延長はせず、食べられる献立を一緒に考え行う調理、買い物代行。</p>	<p>その時食べたいものを提供できる環境にすることで、少量でも食事が摂取できるようにする。</p>

事例提出者からのアピールポイント

項目	内容
ご本人に寄り添って	タバコ、1時間は我慢してくれている。少し延長になると、震えていたことに気が付き、退出迄1時間と厳守した。
他機関との連携、サービス内容の追加等	体調の変化に合わせて、他機関と連携し、洗濯、調理、買い物代行、ゴミ出しと柔軟に必要なサービス内容をプランに追加し対応することができた。そのことでご本人からヘルパーに対して感謝の言葉をいただくことができた。
最後の救急入院	体調悪化により救急搬送が続いていたが、特に祝日の派遣前は、体調悪化時の連絡先を確認し、他機関との連携がとれていた。最後となった救急搬送は活動時サービス提供責任者の対応で救急要請となった。
最後まで自分らしく	救急搬送先について、医療と連絡をとりながら、ご本人が判断することができた。その後、入院先の病院で死去される。
娘さんより感謝のお言葉	絶縁中の娘さんより、「自宅を整理したが、ヘルパーさんが良くしてくれていたことがわかります」とのお言葉を頂いた。

□事例へのコメント□

癌により体調が不安定、かつ生活へのこだわりも強くお持ちのご利用者へ、信頼関係を丁寧に築いて見送りされたのであろうと、具体的に想像することが出来ました。ご本人の体調や気持ちに応じて臨機応変に関わられたことが、ご本人や娘さんからの感謝の言葉につながったのではないのでしょうか。“ご本人から「どのような生活を送りたいか（譲れないことは何か）」聞いておくこと、他機関と支援目標を共有し具体的に役割分担すること、緊急時の連絡体制を作っておくこと”は支援の初動時に欠かせないことです。本事例でもその部分を明確にし、チーム一丸となって支援出来た好事例だと思います。

【社会福祉協議会 地域包括部】



私たちと一緒に 働きませんか♪

ヘルパー募集のご案内はこちら！



社会福祉法人札幌市社会福祉協議会
介護事業部

お友達を紹介して
ほしいまも



まもりん